

大阪府におけるB型肝炎母子感染防止事業に関する研究

(分担研究『B型肝炎母子感染防止に関する研究』)

研究協力者：田尻 仁

共同協力者：古座岩宏輔 伊藤祐康* 加納栄三*

〔要旨〕大阪府での追跡調査の結果、3回のHBワクチン接種を完了しているものは80数%であり、残りの数%はHBVに感染しており、さらに残りの約10%は、転居や不在のケースや、親の受診拒否や医療機関の説明不足によるケースであった。これらは、医療機関によるフォローを十分行うことにより、完全に予防措置を実施することが期待できるものと考えられる。一方、HBワクチンの早期接種を行った33例全例で有意なHBs抗体の上昇がみられ、初期反応は良好であり、HBs抗原が陽性化したものは一例もみられなかった。HBワクチンの早期接種は生後2カ月に開始する従来の方法と同程度に有効であるものと考えられた。

〔見出し語〕B型肝炎、母子感染予防、HBワクチン、追跡調査、早期接種

研究課題(1)「大阪府におけるB型肝炎母子感染予防事業の追跡調査」

〔目的〕大阪府では事業の対象者の利便等を考慮し特定の医療機関で集中して予防措置を行う方式をとっていないため、事業が的確に行われているかどうかを評価する精度管理がとくに重要であるので、大阪府下に在住のHBe抗原性妊婦から出生した児を対象として、これまでに計5回の追跡調査を行った。今回、事業の実施状況とあわせて、追跡調査の結果について報告する。

〔方法・結果〕追跡調査の結果について報告する。

調査対象は、大阪市、堺市、東大阪市を除く大阪府下に在住し、HBe抗原陽性妊婦から出生した児で、医療機関からの請求をもとに作成している台帳から選んだ。予防措置の実施状況の調査は、保健所保健婦が保護者や医療機関に対し、面接あるいは電話により行った。調査は、予防措置がスケジュールどおり実施されていれば全例が3回のワクチンを終了している時期に行った。

第1回から第5回の調査の結果を表1から5に示す。表1にワクチンの接種回数を示す。3回のワクチン接種を完了したものは、82%~85%であっ

た。ワクチンの接種回数が0回～2回であった理由について、第1回と第5回調査の結果を表2に示す。約3割前後がB型肝炎ウイルスに感染したためであり、転居や不在のため理由が不明のものも多いが、措置中に抗体陽性化したものや医療機関の説明が不適切であったと考えられるケースも少数であるが認められた。新生児・乳児期にB型肝炎ウイルスに感染した児の割合は、2%～6%であった(表3)。3回のワクチン接種終了児を対象としたHBs抗体確認検査の実施状況を表4に示す。不明の多い第1回を除く、86%～90%の実施率となっている。HBs抗体の陽性率を表5に不明分を含めて示しているが、不明を除いて陽性率を計算すると、88%～96%となっている。

【考察】今回の追跡調査の結果、3回のHBワクチン接種を完了しているものは80数%で、不完全であった者のうち数%はB型肝炎ウイルスに感染したためであり、残りの約10%は、転居や不在のためその理由が把握できなかったケースや、親の受診拒否や医療機関の説明不足によるケースであった。これらは、今後、医療機関によるフォローを十分行うことにより、完全に予防措置を実施することが期待できるものと考えられる。

研究課題(2)「B型肝炎母子感染予防におけるHBワクチン早期接種の効果」

【方法】1994年9月～1996年5月までにHBキャリア

の妊婦から出生した児37例に対して、Y-HBワクチンを用いた早期接種(生後0、1、3ヵ月)による予防措置をおこなった。3回のHBワクチン接種後のHBs抗体価(初期反応)を確認できた33例について、HBs抗体価、追加接種の例数、HBV eventの例数について検討した。

【結果】現在までの経過観察期間は4～24ヵ月(平均13ヵ月)である。各施設ごとの初期反応のHBs抗体価を表2-1に示した。33例全例で有意なHBs抗体の上昇がみられ、早期接種によっても初期反応は良好であると考えられた。HBs抗原が陽性化したものは一例もみられなかった。一方、追加接種に関しては、HBIGの追加投与を2例でおこない、また、経過中にHBs抗体価の低下がみられた3例(内1例では2回の追加)でHBワクチンの追加接種をおこなった。これら追加接種を行った5例のうち、新生児仮死、早期産児、低出生体重児は1例もなかった。HBIGの追加投与を行った2例はいずれも母親がHBe抗原陽性の例であり、1例では2回目のHBワクチン接種後HBs抗体の上昇が認められないために生後3ヵ月時に追加投与を行い、もう1例ではHBワクチン接種後HBs抗体の上昇はみられたが、抗体価が不十分の可能性を考えて生後13ヵ月時に追加投与を行った。HBワクチンの追加接種を行った3例は、初期反応がPHAで8倍、8倍、64倍であり、経過中にHBs抗体価の低下がみられ、それぞれ生後17ヵ月、4ヵ月と6ヵ月、6ヵ月に追加接種を行った。観

察期間中にHBV eventが3例で認められた。3例全例でHBs抗体価の上昇がみられ、内2例ではHBc抗体の上昇も確認された。これら3例とも新生児仮死、早期産、低出生体重はみられなかった。当院でHBs抗体価、HBc抗体価の上昇が認められた例のうちの1例は生後3カ月時にHBIGの追加投与を行った例である。

[考察] HBワクチンの早期接種を行った33例全例で有意なHBs抗体の上昇がみられ、早期接種においても初期反応は良好であると考えられた。またHBs抗原が陽性化したものは一例もみられなかった。HBワクチン早期接種は生後2カ月に開始する従来の方法と同程度に有効であるものと考えられた。

表1 ワクチン接種回数

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
総数	406(100%)	151(100%)	168(100%)	176(100%)	148(100%)
3回	334(82.3)	129(85.4)	138(82.1)	148(84.1)	126(85.1)
0~2回	72(17.7)	22(14.6)	30(17.9)	28(15.9)	22(14.9)

表2 ワクチン接種が0~2回の理由

	第1回	第5回
新生児期感染	10(13.9)	3(13.6)
乳児期感染	16(22.2)	3(13.6)
医師の説明不足	11(15.3)	2(9.1)
措置中の抗体陽性化	6(8.3)	1(4.5)
児の体調不良	4(5.6)	2(9.1)
死亡	3(4.2)	0(0.0)
転居・不在で不明	15(20.8)	7(31.8)
理由不明(未受診)	7(9.7)	4(18.2)
	72(100%)	22(100%)

表3 新生児・乳児期の感染率

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
対象者数	406(100%)	151(100%)	168(100%)	176(100%)	148(100%)
新生児期	10(2.5)	3(2.0)	4(2.4)	2(1.1)	3(2.0)
乳児期	16(3.9)	5(3.3)	6(4.2)	2(1.1)	3(2.0)
感染児計	26(6.4)	8(5.3)	10(6.5)	4(2.3)	6(4.1)

表 4 抗体確認検査の実施状況

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
総数	334(100%)	129(100%)	138(100%)	148(100%)	126(100%)
実施	235(70.4)	111(86.0)	123(89.1)	127(85.8)	114(90.5)
検査未実施	99(29.6)	18(14.0)	15(10.9)	21(14.2)	12(9.5)

表 5 抗体確認検査の結果

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
総数	235(100%)	111(100%)	123(100%)	127(100%)	114(100%)
抗体 (+)	186(79.1)	96(86.5)	107(87.0)	123(96.9)	107(93.9)
抗体 (-)	25(10.6)	11(9.9)	14(11.4)	4(3.1)	7(6.1)
不明	24(10.2)	4(3.6)	2(1.6)	0(0.0)	0(0.0)

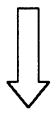
※ 抗体 (-) には (±) を含む

表 2-1

	大阪大学医学部附属病院	大阪府立母子医療センター	小計
症例数	14	19	33
背景			
母HBe抗原陽性	1	6	7
母HBe抗原陰性	13	13	26
児 新生児仮死	0	0	0
早期産児	0	1	1
<2500g (SGA)	3 (0)	3 (1)	6
3回のワクチン後の反応			
HBs抗体価	国際単位	2n(PHA)	
平均 (単位)	666.6IU/ml	6.05	
標準偏差	850.2	1.64	
最低	76.1	3	
最高	3148.1	9	
追加接種した症例			
HBIG	1	1	2
HBワクチン	0	3	3
HBV event症例数 (月数)			
HBs抗原陽性	0	0	
HBs抗体上昇	2 (12,24)	1 (21)	
HBc抗体上昇	2 (6,24)	ND	



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



[要旨]大阪府での追跡調査の結果、3回のHBワクチン接種を完了しているものは80数%であり、残りの数%はHBVに感染しており、さらに残りの約10%は、転居や不在のケースや、親の受診拒否や医療機関の説明不足によるケースであった。これらは、医療機関によるフォローを十分行うことにより、完全に予防措置を実施することが期待できるものと考えられる。一方、HBワクチンの早期接種を行った33例全例で有意なHBs抗体の上昇がみられ、初期反応は良好であり、HBs抗原が陽性化したものは一例もみられなかった。HBワクチンの早期接種は生後2カ月に開始する従来の方法と同程度に有効であるものと考えられた。